

産禅洞だより

■ 岐阜県環境医学研究所・産禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄絶878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ecn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
 第116号 2013.11.1.
 毎月1回発行 産禅洞診療所 松井英介

阿武隈山系の湧水

松井英介



「ネズミが家の中に入ってきて、大切な家具や柱をかじるので困っています。一時帰宅で、短い時間、久しぶりに帰るとネズミの糞や尿がそこそこあるのです。以前に仕掛けたネズミ捕りの中に死骸を見つけると、もう嫌になってしまいます」

東電福島第一原発の事故現場に近い双葉町の方々が避難している福島市や郡山市の仮設住宅で聞いた話です。10月から来年1月にかけて、福島県内外に作られた十数カ所の仮設住宅や借り上げ住宅に、離れたなれに住んでいる双葉町の方々を、私は訪ねます。

古い歴史を誇る双葉町では、先祖代々受け継がれてきた着物や鎧や甲など、貴重な文化財が、そのまま個人のお宅に残されたままになっています。放射性物質に汚染されたので、持ち出せないのです。家族のアルバムなども、そのまま“ふるさと”に置いてきたままです。ですから、すでに2年8ヶ月近く、日々暮らしている3畳二間と台所（107号には風呂と書きましたが、風呂はありません）の仮設住宅には、想い出の品はほとんどないのです。

福島市では、双葉町の山田さんご夫妻に久しぶりに会いました（2013年2月107号をご参照ください）。光重さんは88歳、順子さんは84歳。光重さんは脚が不自由ですが、両手に杖をつけて会場まで来られ、再会を喜び合ったのです。山田さん夫妻は2町歩を耕してこられた大きな稲作農家ですが、酒造りもやっておられたのです。それは「山桜」と「大光」という二つの銘柄。戦後のある時期まで母屋の裏には美味しい水がこんこんと湧き出していました。光重さんは五歳の頃のことをよく覚えていると嬉しそうでした。ところが東電原発がやって来てから、この豊かな湧水は出なくなってしまったのです。今では20mも深いところまでボーリングしてポンプで汲み上げなければなりません。余分な電気エネルギーを使わないと、苗床づくりや田んぼの水も手に入らなくなってしまいました。

東電と日本政府は、一人あたり月々10万円の賠償金5年分を前倒した600万円を支払って、全て済んだことにしたいようです。彼らは自ら撒き散らした放射性物質を「無主物＝何人の所有にも属さないもの」として、開き直っていますが、とんでもない話です。